JAPANESE JOURNAL OF INFLAMMATION
EDITORIAL

*Inflammation : Recent progress of experimental research
and its feed back to the practical medicine : For 17th annual
meeting of Japanese Inflammation Society
Satoshi Kitamura**

炎症—研究の最前線と臨床へのフィードバック

—第17回日本炎症学会を迎えるにあたって—

北 村 論

呼吸器疾患は、肺良性腫瘍、気胸、肺形成異常、異常呼吸などの一部の疾患を除外すれば、すべて急性肺損傷(acute lung injury)である。その典型的なものは、吸引性肺炎、細菌性・ウイルス性肺炎、ARDS などであり、慢性気管支炎、肺気腫、肺線維症などは、chronic lung injury である。近年、気管支喘息も気道の炎症性疾患であることが解明されてきた。lung injury の多くは、肺や気道系の炎症に起因するものであり、その病態解明が急速に進んでいるのが現状である。

急性肺損傷には、肺胞マクロファージや好中球が深く関与しており、これらの細胞の活性化には、エンドトキシン、TNF α 、PAF、接着分子などが関与している。また、主として好中球から産生・放出され、組織損傷を惹起するメディエーターとしては、フリーラジカルや好中球エラスターゼがあげられる。

近年、炎症の病態解明には生化学的、薬理的、免疫学的側面からの研究が活発に行われており、その研究の手段として、細胞レベル、分子生物学的レベル、遺伝子レベルの手法が応用されている。このように炎症に関する実験的研究はますます専門化し細分化しているが、最終的には、これら最前線の研究の成果が、日常臨床へフィードバックされることが望まれる。第17回日本炎症学会においてはこれらの点に留意し、そのテーマを、もっとも先端的な最前線の研究から日常臨床に至る幅広いものとした。また、そのプログラムが、プログラム委員の諸先生のご尽力によって完成したが、以上のような理由から、その主題を“炎症—研究の最前線と臨床へのフィードバック”とした。

第17回日本炎症学会の特別講演(1)は、高久史麿先生(自治医科大学学長)による“医療の進歩と医の倫理”である。近年の高度先進医療においては、臓器移植、人工受精、遺伝子治療など、医療の倫理性に関わるものが多く、医療技術の進歩に伴う医の

* Department of Pulmonary Medicine, Jichi Medical School 自治医科大学呼吸器内科学教室

倫理性の問題についてお話をいただく。

特別講演(2)は、井村裕夫先生(京都大学学長)による“炎症と内分泌系の応答”である。炎症という病態に対して内分泌系がどのように応答し、生体のホメオスタシスを維持してゆくのか、新たな観点からのお話を期待している。

特別講演(3)は、水島 裕先生(聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター長)による“抗炎症・抗リウマチ薬の臨床試験のあり方”である。この領域のパイオニア的存在である演者に大いに期待したい。

教育講演(1)は、宮本昭正先生(臨床アレルギー研究所)による“慢性炎症性疾患としての気管支喘息の病態と治療”である。近年、新たな展開をみせた気管支喘息の病態とそれに基づく治療の最新情報をお話いただけるものと期待している。

教育講演(2)は、清水孝雄先生(東京大学第二生化学)による“PAF 受容体”である。この領域の最先端に位置する演者に期待したい。

最近のトピックスとして、シンポジウム2題を予定している。“サイトカインと病態”を大沢仲昭先生(大阪医科大学第一内科学)と宮坂信之先生(東京医科歯科大学第一内科学)の司会で、また“レドックス制御の基礎と臨床”を谷口直之先生(大阪大学生化学)と審良静男先生(兵庫医科大学大学生化学)の司会で行う。いずれも炎症などの病態に関与する重要な課題であり、その成果が大いに期待される。

従来は行われなかったが、新しい試みとして、筆者が会長講演として“Acute lung injury の病態と治療”を予定している。また、ワークショップは全部で20題を予定しており、いずれも各領域のトピックスを厳選したものである。

そのほかに、ランチョンセミナー4題を企画している。“Cox-2 阻害剤は次世代の消炎鎮痛剤となるか”では鹿取 信先生(北里大学薬理学)と安倍 達先生(埼玉医科大学総合医療センター)が演者で本間光夫先生(慶應大学名誉教授)の司会、“気管支喘息のステロイド療法”はLeonardo M. Fabbri 先生(Ferrara 大学)が演者で、司会は筆者が、また“炎症とサイトカインネットワーク”は村上伸也先生(大阪大学歯学部)と三宅健介先生(佐賀医科大学免疫・血清学)が演者で、後藤 真先生(都立大塚病院)の司会、“抗アレルギー薬をめぐる最近の進歩”は奥平博一先生(東京大学内科物理療法学)と永井博成先生(岐阜薬科大学薬理学)が演者で、奥田 稔先生(臨床アレルギー研究所)が司会される。その他に一般演題約120題が発表される。

諸先生がた、研究者、大学院生など多数のご参加を期待している。

(第17回日本炎症学会会長)